

第 33 回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時：令和 8 年 6 月 8 日（月）

午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分

場所：長野市役所第一庁舎

4 階 141 会議室

出席委員：6 名（鷲澤委員長、金澤副委員長、越原委員、柳瀬委員、轟委員、大日方委員）

欠席委員：2 名（塚田委員、吉澤委員）

出席職員：18 名（都市整備部 桑原部長、まちづくり課 内山課長、遠山課長補佐、富井係長、
小林主事、事業関係課 13 課）

- 1 開会
- 2 あいさつ 都市整備部長
- 3 委員委嘱
- 4 委員紹介
- 5 事務局紹介
- 6 委員長及び副委員長選出 委員長に鷲澤委員、副委員長に金澤委員選出
- 7 諮問
- 8 議事

（1）中心市街地活性化制度の概要について

資料 1

（2）中心市街地活性化プランのフォローアップについて

資料 2

（3）第三期長野市中心市街地活性化基本計画の概要について

資料 3

（説明：事務局）

発言者	発言内容
委員	目標や目標指標について、（計画区域として）城山公園エリア等が増えたが、（通行量や空き店舗数等の）目標指標は善光寺表参道が中心になっている。東口公園や城山公園でも様々なイベントが開催されているが、これらの評価について計画の指標に入っていないことに違和感がある。目標指標が善光寺表参道沿いばかりであることについて、どう考えているのか。
事務局	中心市街地のエリアは、善光寺表参道を軸としたエリアになっているため、目標指標も表参道を中心としたものになっている。善光寺表参道を軸としたエリアをまずは、しっかりと人が歩くエリアにして、さらにそこから周りに波及させていきたいと考えているため、この指標と事業の組み立てを行った。 いただいたご意見を踏まえ、今後は城山公園エリアや東口エリアなども賑わいが生まれているのかという点を評価できるものも検討していければと考えている。

委員	指標の中に含めないとしても、どういう傾向を示しているのかを見ることで参考になると思う。今後、可能であればそのような形をとっていただきたい。
委員	ながノビ！や城山動物園の入場者数なども出してもらえば参考になるかもしれない。
委員	事業一覧の部分で新規事業が明示されているが、これらの事業は以前の活性化プランから移行されているものなのか、完全に新規のものなのか。
事務局	今まで実施していた事業も入っているが、活性化プランには位置付けておらず、今回の計画で新たに活性化に資する事業として位置付けたため、新規事業という形で整理している。 長野マラソンウェルカムフェス開催事業、インバウンド等対応店舗支援事業、自動運転バス導入事業などは新規の事業である。
委員	これからは“モノ消費”から“コト消費”に切り替えていく必要がある。物販は郊外にあるため、コトありきの中心市街地を作っていく。中心市街地を無理やり大きくする必要はなく、まちに寄り添っていくことが人口減少の進む今の時代に大事なことだと考える。 共通駐車券事業に関して、中心市街地の駐車場利用が減少している（長野駅前4割、権堂を中心としたエリア6割、善光寺大門3割減少）。やはりイオンモールの影響が出ている。歩いていても肌感覚だが人は減っている気がする。 歴史や文化を大事にしながら、何か中心市街地に来てもらう仕組みを作っていく必要がある。 習い事でもんぜんぶら座やイーストプラザに来る子供が多いため、中高生の居場所づくりを今後行っていかなければならない。部活動の地域移行となったため、習い事の実施を中心市街地に引き継げればいいのかではないか。費用がかかるのであれば古い建物を活用し、リノベーションして実施すればいいのではないか。 商業以外の機能を充実させるまちづくりにしていく必要がある。マンションなど住まいを増やすのも良いが、一定のにぎわいの効果しか出ないため、文化や歴史を育むようなものを計画の中に組み込んでいくのがいい。 イオンモールの影響は大型店を中心に出てくるため、県都の顔である駅前を何とかしないといけない。もんぜんぶら座も用途廃止が決定しているようだが、その後の計画がよくわからない。そこも併せて今後中心市街地をどうしていくのか、ハードソフト含め各部局合わせて真剣に検討してほしい。

(4) 第三期長野市中心市街地活性化基本計画の事業について 資料 4

(説明：事務局)

発言者	発言内容
委員	1～51の事業に対し事業の予算額など、どの事業に対し重点的に市の税金が投入されているのかがわかるといいのではないかと。 目標1「住みたくなるまち」の指標1について、北石堂のマンション267戸ということで、目標をほぼ達成してしまうのではないかと。マンションで増えた人口と、それ以外で増えた人口の実態はどうなっているのか。マンションでは人口が増えているが、住宅地では空き家が増えている、人口が減っているという実態に対し、施策が必要かなどを考えられる。今後5年間でそういったものを分類して見せてもらえると考えやすい。
事務局	予算の関係は、市の予算と各事業主体が執行する予算があるため、どのように掲載するのが適切か検討していきたい。 居住者の動向について、空き家率の算定を現在行っており、五年後再度調査を行うので、どんな指標の出し方が可能かどうか、今後の研究課題としていく。
委員	目標1「住みたくなるまち」について、マンションにはどのような人が移住してくるのか、どういう人をターゲットとしているのか（県外から来る人なのか、市内の郊外から中心市街地に来る人なのか）を教えてください。県外からなら純増だが、郊外からだと空き家が増えてしまう。県外から移住すると、子供がいる間は地域の人とのつながりが持てるが、子供が大きくなったらつながりが持ちづらくなり、地域に参加しづらい。そのようなことをどう考えているのか。 また、目標4「歩きたくなるまち」について、指標3-①6地点の歩行者・自転車通行量は増えてきているのに対し、指標1 善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量は横ばいとなっている。中心市街地の歩行者・自転車通行量が増えてきている一方でどこかに流れているのはいいことだが、どこに人が流れているのかを把握できると、エリアの広げ方にも使えると思うが。
事務局	目標1「住みたくなるまち」については、今回主要事業として「長野駅前B-1地区市街地再開発事業」と「北石堂共同住宅等整備事業」について位置付けているものである。これまで長野市が支援してきた事業については、できるだけ市外からの移住を増やしていきたいことを事業者の方をお願いしてきた。今回も市としても働きかけをしていきたい。 善光寺表参道沿いの西友のところのマンションについては事業者からの報告で、約3割が市外からの移住者であると聞いている。市としてもそういった形で働きかけながら、中山間地から吸い上げるというこ

	とではなく、できるだけ市外からの居住者を増やしていけるよう検討していきたい。また、子供が大きくなった時に地域との繋がりが薄れてしまうことについて、市内の交流施設の利用ができるだけ促進されるような運営方法を、運営側からの視点ではなく、利用者側からの視点で見直しをする中で、活動に参加しやすい環境整備が必要になってくると考えている。 目標4「歩きたくなるまち」について、善光寺周辺の歩行者・自転車通行量が横ばいであることに対して、6地点は増えているということであるが、指標の3-①については、例年9月に行っていたところが、業務委託の関係で、11月に行われたため、秋の観光シーズンに一部かかったところであり、観光客の数字がここに入ってくるにより、目標値達成しているのではないかと考えられる。善光寺周辺から市内に分散してしまったということではない。
委員	目標1「住みたくなるまち」について、上手く循環できるというのではないかと個人的に思っているが、郊外に家を買ってしまうと、なかなか引っ越せず、動きたくても動けない。空き家などが問題になっているので、借りることができる住まいが郊外にあって、子供の成長により、判断ができるようになったら中心市街地に引っ越すなどの循環型のモデルが見えると、今後移住してくる人を含め、良いのではないかと。
委員	進捗を報告してもらって、助言や提案をするという形で、委員として計画評価をする責任がある。51の各事業の実施・評価は、しっかりPDCAを回していく必要がある。“評価する”という立場に立った際、基本計画の目標指標にどれだけ寄与したかという観点で見ていかないと、最終的に評価を十分にできないのではないかと。事業の26「外国人観光客受入環境整備事業」のように「イルミネーションの来場者数30万を想定している。」などの具体的な数字があると、我々としては想定に対して実際どうだったのかというところを検証することによって、この評価はどうかというのが見えてくるので、事業効果として、それぞれの項目にどれくらい寄与する想定で各事業やっているのか、どんなアウトプットをして、それに対してどんなアウトカムを想定しているのかというところをしっかりと示してもらわないと、評価をすることが難しい。ただ単に事業内容を書くだけではなく、どれくらいの事業効果を想定しているのかが見えてくると、どの事業が具体的にどれだけ結びつくような事業をやったのか、それに対して効果がどれくらいだったのか、ということに対して我々は、各専門の先生方の立場で「事業がこれだけやったのに成果が出なかったのは、こういうことが原因だったかもしれない」というような話ができると思うため、整理していただきたい。

事務局	それらも含めて、長野市がお金を出す場合には当然各担当課で、厳しい査定を受けて、実施については意義があるということで予算化している。その指標も皆さんにご覧いただけることができるかどうかも含めて、考えていきたい。 また物によっては伝統的なものを続けるべきだろうというものもあると思うし、ソフト事業についても、どこかを変えていくべきものがあるかという視点でも、各担当の皆さんにも事業に知恵を絞ってやっていただいている。そういった視点からも皆さんにも評価いただけるように、今後評価いただくための結果をどのように出していくかということも含めて、工夫していきたい。
委員	目標4「交わりたくなるまち」という言い方がわかりにくい。指標が箱ものの中に集まって何をするかの人数で図られている。ながの祇園祭では、見ている人もそうだが、やっている人たちが一生懸命で、生きがいを感じたり、楽しかったりそこに至るまでの道のりでいろいろ皆さんと交流しながら、活動していると思う。実はそういう皆さんこそまちを賑やかにしてくれる。箱ものの中で何かをするために集まる人の人数だけでなく、イベントなどに携わっている人たちの図る指標が必要なのではないか。 指標4に関して、生涯学習センターの利用者数が少ない。理由について知りたいと以前から本委員会で意見が出ている。改善されていないため、生涯学習センターがもっと利用しやすいように抜本的に考え直してほしい。中で行う事業などは工夫していると思うが、利用者が利用しやすい形態とは何かをもう少し研究していただきたい。 もんぜんぶら座も用途廃止が決定しているため、この機会に人が満員になるくらい利用されるような形態を模索してほしい。 指標4については、考え方を変えてみるのも良いと思う。実際は、目標値を達成していないというよりかは、数え方の問題な気もするため、その辺りも検討してほしい。
事務局	イベントに携わる人たちの人数について、フォローアップ、評価を行っていく中で、各51事業について、どれだけ中心市街地の活性化に資する形で見ているかというものについて、今後各課への照会の段階において工夫しながら、そういったものが見えるような形にしていくよう検討していく。 指標の4の関係について、生涯学習センターと権堂イーストプラザの利用者数がコロナで1度大きく減ってしまい、十分に回復していないという現状がある中で、やはり利用者目線で、運営方法については見直しが必要ではないか、事務局としても感じている。関係課にも働きかけをしながら、できるものについては改善をする中で、利用者数の増加に繋がるような形に取り組んでいきたい。

委員	「長野市レンタサイクル事業」について、城山公園のポートができてよかったと思う。海外では観光の手段より通勤通学の手段としてLUUPが使われている。観光の面だけでなく、交通の手段として、一般の市民が使えるものとして、導入してもいいと思う。
委員	指標の評価軸について、各事業でアピールしたいことに関しての備考、事業ごとの軸みたいなのを用意して、それぞれの特徴が評価できるようなものを考えてほしい。例えば、マラソン事業なら参加人数だけでなく、年齢層が広がったとか、男女比がどうなったなどの点を意識してほしい。
委員	各事業に対する評価が難しい。その辺をどうするのか、もう少し評価の記載など考えていただきたい。 今後 51 事業の増減、内容変更するたびに、本委員会で評価をして、国に変更申請を上げていくということによろしいか。
事務局	今までは、事務局だけで、委員の皆さんに説明をしてコメントいただいていたが、各事業の担当課にも、間接的にそれぞれの事業が中心市街地活性化に繋がっているということを意識していただくということを目的に、今回から各事業の担当課も出席し、その場でダイレクトに議論をしていただくという形式に変えた。 そういう意味で、いただき意見がもっと活かされるように、議論をする中で各事業についてブラッシュアップを図っていきたい。
委員	今回から各事業の担当課が来るようになったのはとてもいいことだと思う。 評価にもいろいろな形があるが、ずっと指摘しているだけより、目標を設定したが、実態はどうなっているのかという部分を共有し評価することで、事業のブラッシュアップをしていくという形で評価専門員会を活用していけばいいのではないか。

9 その他

事務局	これまでの評価専門委員会には、我々事務局しかいなかったため、実績としては、評価する指標がどうなったかという視点でしか議論をしなかった。そのため、委員の皆さんも何をどう評価すればいいのかと思っていたのではないか。 今回の 51 事業すべてが、必ずしも中心市街地の活性化のために行っているわけではなく、行政一般事務として行っていく中で、中心市街地の活性化にも寄与するものである。 個々の目標などを整理し、それぞれの事業が中心市街地の活性化にいかに関与したのかどうかといったところを結論として出していきたいと考えている。
-----	---

	今回の委員会は、計画の認定を受けてから最初の委員会であったため、これから実施していく内容を評価してもらう機会であった。今年度末近くにある委員会の時には、事業を実施した結果に対して、委員の皆さんからアドバイスいただいて、改善につなげていければと思う。 長野市は中心市街地だけでなく、全市的に空き家問題は非常に大きな問題になっていくと考えられる。中心市街地に住む人を増やしていくことで、コンパクトシティプラスネットワークを実現していきたいということはもちろん、空き家対策を含めた全市的な対応をセットでしていくという意味で、中心市街地を活力あるものにし、その効果を周辺部に波及させていきたいと考えている。
--	---